



海余見圖志

三編

卷

へ遠13  
2475  
46



3  
2475  
46

源君見聞志三篇卷之三

忠目錄



一 將軍家法也決斷乃復

若知親公業再論乃復

卷之貳

一 至盛法也乃復

大正六年一月五日  
本校出版部氏贈

一 在初秋公業和年乃夏  
將軍内奏は制禁乃事

在初秋公業和年乃夏  
和同美登盜賊吟味乃夏

卷之三

一 和同美登法乱と致事

在強し同自害之夏

一 廣元美登閑終乃夏

在禪師云曉上洛乃夏

卷之四

一 美登云曉成謀乃事

在三浦美村美登と不使の夏

和同美登歎收成乃事

在廣元美登が忠と蔵乃事

卷之六

一 將軍しやうぐん尾公おのこうの裁断さいだんと難がたと始はじ不ふ更ま

在い廣元ひろもと知良ちら籍しやく所しよ乃な更ま

一 尾公おのこう廣元ひろもとの飛つ伐ば免めんの更ま

并ひら廣元ひろもと和わ田でんの誠まこと志しと函は乃な更ま

卷之六

一 相あ掾ら次じ而に相あ内ない好こう乃な更ま

在い以い鴻こう局きよ知ち比ひ奈な志し幕まくら乃な更ま

卷之七

一 長ちやう内ない局きよ行ぎやう断だん於お乃な更ま

在い相あ比ひ奈な三さん市し中ちゆう秋あき乃な事こと

一 春はる内ない令れい身み知ち内ないと疎そ云い乃な更ま

亦また相あ掾ら次じ而に自みづか乃な事こと乃な更ま

卷之八

一 知ち比ひ奈な信しん乃な相あ内ない免めんと敵たか乃な更ま

在如條藩内又と稱る也

將軍局が緋田成斗と稱る也

在尼公嫡姫局と稱る也

卷之九

尼公松島と羽村と娶らん斗は

事

在松嶋貞女乃遠成函ふ也

尼公松嶋が心屋と稱る也

在松嶋貞女自害乃也

卷之拾

將軍法臺所は慈湯乃也

在秀秀再夜出た害乃也

宿直乃武士及湯乃也

在和田至盛強劫と稱る也

卷之拾三

一 三浦重法免仕乃更

在泉小次重親年德練乃更

一 飯沼乃社中と誓約乃更

在安念法原長使乃更

卷之拾四

一 安念は家人と譲りふ更

一 在在柄年と一味合所乃更

一 中利中八重惟久愛心乃更

在子孫分安念成生捕乃更

卷之拾五

一 在在安念成所問乃更

在連判の諸士と捕らふ更

一 中利惟久在柄年と成欺く更

兵 親年子友徳友と村迎電乃更

卷之拾四

一 將軍義盛が子息免許の更

在 義盛子信之取内成徳乃更

一 三浦重胤長り免許成徳乃更

在 義盛内憲法成以く中始乃更

卷之拾六

一 小條内胤長同重乃更

在 胤長小條の四魚と白乃更

卷之拾七

一 尾公即智建助乃更

在 在柄平と延尉小引波乃更

卷之拾八

一 胤長奥州へ既胤乃更

在 美 登 山 陣 之 討 入 之 事 乃 復

一 和 田 朝 盛 父 之 孫 云 乃 復

在 和 田 在 名 密 意 之 決 別 復

卷 八

一 美 登 横 山 古 馬 之 追 密 決 乃 復

在 美 登 在 柄 之 密 如 密 意 乃 復

一 美 内 謀 之 密 比 也 傾 乃 復

在 美 登 密 謀 不 變 定 乃 復

卷 九

一 和 田 朝 盛 道 云 乃 復

在 美 登 憤 怒 朝 盛 攻 取 返 之 事 乃 復

一 德 舍 中 也 隆 乃 復

在 將 軍 美 登 之 可 存 身 乃 復

卷 十



一 義州志怖 固章乃夏

在古角 次高 沛集乃事

一 三浦身村出 密統乃夏

在 身村 夏心 祿人乃夏

卷ノ武拾壹

一 筑後在妻 尉注進乃夏

在 筑後 在妻 尉注進 乃夏

一 幕府西也 友門合戦の夏

古郡 保忠 曾我 働乃事

卷ノ武拾貳

一 細比奈 強曾 友門と 破乃事

在 之方 乃 幕府 入乃夏

一 在清 保忠 身村 成勢乃夏

在 將軍 法基 登之 入乃夏

卷ノ貳拾三

一 秀吉曾裁法家人教養討死の变

一 高井之重氏討死乃变

一 肥前国知以高と教ふ变

一 春村豹時之变此代と云ひ

事

卷ノ貳拾四

一 秀吉仁心頼時内助くお变

一 横山重和田陣くお变

一 中比之漢右官人路合裁乃变

一 花小若亦お变

卷ノ貳拾五

一 將軍崔之長上山嶺書乃变

一 在長清流矢くお变

一 天竺又子一族自害乃更  
在徳舎静澄無品乃更

物目錄終

源倉見聞志三篇之志

將軍家清俊断の事

在朝親公業再編乃更

智成ちのりく人成や伏し一い行り  
人成や功り道さ之ち言ふとりのりく人と志す  
まい世に言ふ成る為の備はるかものの受け  
まらずしるも生ま業を成すたらばはけられる

門徒乃廣く其を其のつぎ  
て愚い人の是と論久し人々  
其の事相田が取柄中  
能人と名く信成を知りて伏  
し其の心を口海皆一族  
同言中りて門下に群衆  
入魂之人事成を以て孔子乃

いよ人妻が妻あり又樂し  
いよやと將に其の是と思  
ハカ人々其の相田を三浦の  
棟梁と名く一族の智仁者  
と名付て其の事おついで  
ハカ人々其の相田を三浦の  
棟梁と名く一族の智仁者  
と名付て其の事おついで  
ハカ人々其の相田を三浦の  
棟梁と名く一族の智仁者  
と名付て其の事おついで



味方と旗一 隆初成 徳兵衛 人斗ふ  
乃所々 山系 時々 將軍の 是如  
小川 兵衛 隆初 人斗ふ 隆初  
と世一 中と 隆兵衛 不 將軍 宗經  
公直 小吏 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛  
隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛  
有ふ 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛

とむら 西の人と 隆兵衛  
おとむら 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛  
双方乃 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛  
か 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛  
公業 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛  
隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛  
隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛  
隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛 隆兵衛

そがんが高野の法にありて海へ一久  
投軍聞しとて支のそに一族成程なり  
合戦成企乃夏嶋あふるおと云川  
舟一結し結士の別面より交遊か  
ふ面成結あふ中某が役同ありか  
ゆえに陸初成は早速死付ふ事と誓  
えり事此及く所へ前く海下の

面あり結し結士の別面より交遊か  
加勢成ありとて支のそに一族成程なり  
ゆえに陸初成は早速死付ふ事と誓  
えり事此及く所へ前く海下の  
平定ありとて支のそに一族成程なり  
用ひて合戦なりとて支のそに一族成程なり  
已しとて結し結士の別面より交遊か

私一黨にわかれしと業が東西とありし中  
全教と出せしめしむとんまの権籍をせし  
まが名をそん既く船敷教とんをせしめし  
私一黨にと業成物くふゆを業と  
お達し全教のりよむとてゆすて風流成  
加えんとんが好むは三度乃命と教を  
名あり及ぶとて同法は一旗成しゆを

と業成かたは是依信とんがぬ来り中  
らひとんぬ亦全教と助る人との所あり  
以ゆふ甲曹乃用とんとははるるれも  
とんは世体そ欠つ事市流ハ海あり  
来りしとんも皆をいへ常振りゆを  
くやくもとの法と軍とを一集しとん  
百人をりとの交必入とんをりとの交



と申すは其の御心後智の若くして夏哉  
女をさう若く育乃族の若くしてふれ  
お人の申すは情をさうとせしむるは軍  
義を盡す誠心と感ずお人が争痛おわく  
し向後を恨成法さうと忠義成励し今  
又強敵の罪を赦さうと人業の女成返  
し知親とまゝに女成法さうハハハハハハド

お平代いゆきとて一は河原さけお人  
よま乃族若くともかき一は軍の若  
と追おせし義を盡すお軍の申すは情に忠  
乃親成すお人さうとせしむるは軍  
し音も有るいえども上意はさう改むるは  
お人さういし情を盡すお軍の申すは情に忠  
お人さういし情を盡すお軍の申すは情に忠  
お人さういし情を盡すお軍の申すは情に忠

おのゝ出度秋ヶの好身とあり山方人さま

一尺五寸はあつとわくは 狂遊成りともあは

波収とゆれ乃と 作波とまゝと夫をま

船親と業将軍の命ありとく幸端と止り

小席鳴とくを伴の女と物束ありと元上

こゝと業と不阿と海わふ下の女ありと執

何とも出さぐと船親の妾と笑とくよ

如白くはくを初とく早速と波女

と船親が方へ送る返りか小船親とく

欠とせ物心深めとくかめか問をくつら

貴念も失せとく情懐とくかハ波女成

害とく金とくふおひとくとも先き如成後

お波女入とくまふかかお望日再夜通電

行方知とく船親大はとくあ

年

業と云ふ事その事なりと疑ひある  
 こと此の六毛湖着懐成時うんものより  
 金銭乃用と云うる業是と算く物親  
 前成其乃ふくく二令成懐る金銭  
 人ともる系奇懐る事其外も自  
 身常乃情身成使一余人の務勤なり  
 人なりとも之使者と云ふ其名と云送る事

きじ物親心得ううと返る一既令其  
 小かよんをくにいふて其時毛と使り  
 令身時成なり双言ちごえ使なり  
 及んくうと系言決同功の務勤其の  
 衆中一強一弱中云業此等と存て  
 衆多クあり一むき成とせ一紅回乃う一

源氏加元孫源氏加元孫一と云上せ一六將軍源氏加元孫

おのれを以ておのれを以て金銭と企てか子細成母のおのれを以て

と仰り申すと仰り申す或時命と仰りえん中か乃女と仰り申す

又業が由り又業が由り物親が許へ返し以て之を聖日又業が由り

まゝに迎電してまゝに迎電して所由を知らざるに業と云業まゝに迎電して

か西局の物親銀心と生ず横子成えんか西局の物親銀心と生ず

が為し金銭企てしと云ふか一と云ふが為し金銭企てしと云ふ

又業未か西局又業未か西局の所を以て一と云業波女と又業未か西局

入る切ぬれ入る切ぬれ物親と申す一と云ふ入る切ぬれ

一と云ふと返し一と云ふと返し一と云ふと返し又云ふ毎一と云ふと返し

波と申す波と申す一と云ふと返し一と云ふと返し波と申す

又業と云ふ遊道の西局又業と云ふ遊道の西局小波と云ふ波と云ふ又業と云ふ

一と云ふと返し一と云ふと返し一と云ふと返し和同波女一と云ふと返し

又業と具負又業と具負一と云ふと返し一と云ふと返し又業と具負

元とくく美也く如自成うくあてせん也  
 乃不皆列の御軍敵もと皮ーや  
 然くも与人とらわく一以多成身ぬが  
 と而時く与人とらわく一ゆく与人ぬり  
 今度くわいわくくと上軍一達せざら  
 うちく一備身成変せんとかいひ  
 浅軍え上候よりわびくをくくも

且る事一つとらわくと是遊ゆく清和と未  
 ありあはく美也くを都く守るうもて清和  
 同くく清和くひの好子といふくも同ひ

徳倉見聞志三編之巻終

年

